

【鶴見区】令和3年第3回区づくり推進横浜市議員会議 議事録

開催日時	3年 9月 7日 午後2時00分 ～ 午後3時30分
場 所	鶴見区役所6階 8・9会議室
出席者	<p>【座 長】古谷靖彦 議員</p> <p>【議 員：5名】井上さくら 議員、尾崎太 議員、 有村俊彦 議員、東みちよ 議員、山田一誠 議員</p> <p>【鶴見区：19名】</p> <p>森健二 区長、松本智 副区長、市川裕章 福祉保健センター長、 今仁知宏 福祉保健センター担当部長、相場崇 鶴見土木事務所長 下枝昌司 鶴見消防署長 ほか関係職員</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和2年度鶴見区個性ある区づくり推進費決算 2 令和2年度個性ある区づくり推進費 自主企画事業費等決算について 3 令和3年度個性ある区づくり推進費 自主企画事業費等執行状況について 4 令和4年度鶴見区予算編成について 5 その他報告事項（花月園公園について）
発 言 の 要 旨	<p>有村 議員：「寄り添い型生活支援」、「寄り添い型学習支援事業」について、with コロナとしての何か工夫や取組はあるか。</p> <p>伊藤 生活支援課長：「寄り添い型学習支援事業」は昨年度の最初の緊急事態宣言の時に一時事業を休止したが、その後は、緊急事態宣言中においても休止せず事業を行った。また、利用する施設の都合で活動時間が本来20時までのところ、30分間前倒しの19時半となっているが、利用者の活動に大きな変更はない。今まで中学校1年生から3年生と高校生の対応をしていたが、今年度は、小学校5・6年生向けに、体験的に学習支援を実施。高校進学支援については、「中学生では遅いのでは」との声があり、今年度から取組を始め、現在15名の小学生が登録され、日々、7・8人が来て勉強している。</p> <p>有村 議員：「つまみプラス」の高校生の状況で現状を教えてください。</p> <p>伊藤 生活支援課長：中学校卒業後、登録する生徒は多々いるが、実際に高校が始まると、部活やアルバイトなどの理由により、参加者は4・5</p>

名の日もあるが、中学生に比べると非常に少ない。コロナ禍以前は大学の見学などイベントを行っていたが、昨年度から生徒と一緒に外出は行っていない。日々居場所として事業を実施している。

有村 議員：「寺谷のこどもの遊び場」について、安全基準が満たされていないために、遊具が全部撤去され何もない状況である。区民から今でも遊具を求める声が届いている。区として抜本的に何か対策として考えられるものはあるか。

岩田 地域振興課長：遊具等の設置は、遊び場の面積が狭く安全領域が確保できないこと、地面のアスファルトで怪我をする恐れがあることから抜本的な対応は難しい。引き続きこどもの遊び場として遊具を撤去した空地の状態での利用としている。

有村 議員：現在、ワクチンを接種済みの鶴見区職員の割合はいくつか。

柏木 総務課長：福祉保健センターの職員等、医療従事者は接種済みであり、集団接種会場で余ったワクチンの活用も進めている。早ければ今週の金曜日から横浜市職員への職域接種が始まる。希望する職員は接種ができるよう進んでいるところだが、正確な割合は把握していない。

東 議員：新型コロナウイルス対策について、毎週 100 人近い陽性患者が発生している。対応する職員として 20 数名の応援があるようだが、こなし切れなるところがあるのではないかと。陽性患者への連絡にタイムラグが発生するなど対応はできていないのではないかと。

金子 福祉保健課長：陽性患者が急激に増えた 7 月の中旬は応援体制が整わず、病院から発生届を受けた後、保健師につながるのが 3 日～5 日後となることがあった。そのため、病院から発生届を受理後、まず、事務職員が陽性患者に連絡し、急変時の対応など基本的な事項を伝え、後日保健師から濃厚接触者や療養期間を説明し、発生届出受理から第一報までの間に患者への連絡の日が空かないよう対応した。その後、多くの応援や業務の見直しを行い、保健師の調査時間を短縮するため、分担等業務改善を進めた結果、現在は発生届を受けてから翌日、土曜日の届け出であれば概ね月曜日までに保健師が対応できている。

東 議員：自宅療養者の割合とフォローについて教えてほしい。

金子 福祉保健課長：約 9 割は自宅療養である。基本的に療養期間の療養サポートは県が行う。対応方法だが、コミュニケーションアプリの「LINE」ができる方は、「LINE」を登録し、その日の健康状態について

体温や酸素飽和度（血中酸素）など、数値を回答する。「LINE」を使えない方は AI を用いた自動応答の電話で答えていただく。応答がない人のリストが県から上がってくるため、区から電話をし体調を聞き取る。電話で連絡が取れない時、例えば、独居など心配な人は区で訪問する。LINE から直接訪問まで、段階に分けてサポートを行っている。

井上 議員：9月末まではコロナ対策優先と聞いたが、具体的にどういった対応か。10月以降は、この応援職員などの人員体制はなくなるのかお聞きしたい。

森 鶴見区長：福祉保健課への応援職員は、9月末までの自分の通常の業務を見直し、時間を捻出して応援を行っている。そのため、期間を一度9月末で区切り、自分の業務のスケジュールを確認する必要がある。10月以降は、感染状況等を踏まえながら、継続・拡大・縮小と対応する。

井上 議員：資料に今年度の福祉保健課の体制として正規職員26名のうち医療職8名と記載があるが、これは昨年度と比較すると人数は増減しているのか。

金子 福祉保健課長：今年度、担当係長1名（事務職）と保健師1名、合計2名が福祉保健課に配置された。

井上 議員：一昨年などコロナが広まる前の福祉保健課の体制は何名なのか。

市川 福祉保健センター長：一昨年は24名である。

井上 議員：会計年度任用職員で7～10名増員。正規職員は2名増員のみ。他は、他課等からの応援となっているのか。

柏木 総務課長：職員体制は2名増員のみだが、人材派遣や会計年度任用職員は、去年に比べて多く配置している。そのうえで、業務が繁忙になったところには区長の権限で応援に行かせることができる庁内応援の規定に基づいて対応している。コロナ禍がさらに続いていく場合、体制をさらに強化する必要がある。現状では今いる人材を有効に活用しながら、区民に不安を与えることがないよう対応を行う。

井上 議員：職員体制については区だけでできることだけではない。コロナの対応はすでに2年続いているため、抜本的に区の福祉保健体制を強化し、一時的ではなく、正規の体制強化をお願いしたい。このコロナも比較的まだ長くなると分析されているため、是非、区の実情を市に伝えていただきたい。自宅療養者が大幅に増え、医療に繋がりにくい場合、

どうやって医療につなげるのかとても大事だと思う。自宅療養中の患者が、容体悪化した場合に119番通報すると伝えていると思うが、現状、横浜市内で救急車を呼んだ3割は、救急車が来るけど搬送先が見つからないようである。鶴見区内の状況はどうなっているか。陽性患者が救急車を呼んだ時、消防、医療、保健所の隙間に入らないよう、全体的な対応が必要だと思う。

下枝 消防署長：消防署単位ではそこまで細かく把握していないため、もう少し調べたい。

井上 議員：把握してないのはよくない。搬送した場合のケースは統計が残るが、搬送できなかったケースは、なぜ搬送できなかったのか。患者はどうなったのか。その後医療に繋がったのか。場合によっては搬送できなかったことにより症状が悪化してはいないのか。そこはフォローをしないといけない。陽性患者が救急車を呼んだことなど、保健所には情報共有されるのか。

金子 福祉保健課長：区や市の健康安全課、県のサポートチームでみる共通カルテのような療養サポートのシステムがあり、患者にいつ連絡して、どんな数値を聞き取ったか記録されている。そこに救急車を呼んだことや、自宅に帰ったこと、酸素飽和度の数値などを記録に残してある。それを、モニタリングしながら具合が悪い方には県の医療職がフォローに入るようにしている。

井上 議員：必ず医療に繋がるように、何とかしていただきたい。患者が「救急車を呼んだのに運ぶ先がなくて運べない」状況はそもそも想定していない事態。神奈川モデルの場合、酸素飽和度93%以下なら入院などの基準はあるが、該当患者が搬送されなかったケースがあったと聞く。その患者はどうなってしまったのか、救急ではわからない。搬送されなかった患者を誰がどうやってフォローしているのか、把握しなくてはいけない。早急に特に自宅療養者の医療的なセーフティーネットをしっかりとっていただきたい。

森 鶴見区長：新型コロナ対策については県と区で役割がある。区でできることは非常に限られているが、日々の健康観察などにしっかり対応し、誰一人自宅療養者が重篤化することのないよう、問題意識を持ち、（区でできることを）取り組んでいきたい。

井上 議員：65歳以上の高齢者の接種率が8割になり、希望者はほぼ接種できたと評価されているが、実際はどうか。特に一人暮らし高齢

者や「希望したがまだ打てていない方」などはいないのか。もう一点、外国の方は、「翻訳されたホームページへたどりつけない人」や「対面でなければ説明がうまく伝わらない人」など、言葉の壁でワクチンが受けられていない方はどのように把握しているのか。

柏木 総務課長：希望者は接種できたとの評価はあるが、本当に希望者全員なのかはわからない。今年の春以降、民生委員や介護保険事業者など、常に高齢者に携わっている方々が高齢者に声かけをし、情報の提供は今も引き続きさせていただいている。引き続き活動を続け、「希望したが接種できない方」がいなくなるよう対応を行っていききたい。外国の方は、今も区役所のワクチン相談ブースに多く来ており、様々な機器を使い説明を行っている。予約せずにワクチン会場に来た外国の方もおり、その場で説明をし、次の予約の取り方などを案内している。引き続き希望する方について、接種できるよう区としてできることをしっかりとやっていきたい。

井上 議員：「高齢者の希望者が取り残されていないか」については、是非もう一度チラシなどで呼びかけていただきたい。知らなかった人がいないよう、アンケートなどを民生委員に持って行ってもらうなど、簡単なことでいいので、もう一度アクションを起こしてほしい。是非外国の方がワクチンの相談ができる場所について、外国の方のコミュニティなどにラウンジ等を通じお知らせいただきたい。

山田 議員：「地域育児教室」「親支援講座」について、学校休校などがあるなか、ストレスのケアを行う場として重要だと思う。今年度、予約制になり、従前と比較して参加できる人数はどうなったか。また、こどもの感染状況が高いが、今後どうするのか。

御小柴 こども家庭支援課長：予約制になり、全体として例年よりも若干少ない参加人数である。「予約が取れず参加できない」というよりは、コロナによる出控えや、人との接触を避けたいとの不安もあると感じる。相談方法は、家庭訪問や電話相談など、状況に応じ保健師・助産師たちが寄り添うように支援を重ねている。

山田 議員：商店街の件だが、地域の方と話をすると、とても厳しい状況にある。商店街の活動活性化に向けた補助金等について聞きたい。また、3年度の執行状況を見ると、活動活性化に向けた事業の記載があるが、具体的にどう考えているのか。聞かせていただきたい。

岩田 地域振興課長：今年度の例として、経済局のプレミアム商品券事業を尻手銀座親交会が実施する。昨年度は、商店街に加盟している店舗一店舗あたり 10 万円を交付する商店街等活動支援事業を実施し、27 団体で 820 店舗に支援した。実質無利子融資については、区内では 1,567 件、282 億円程度の状況と聞いている。また今年度は、レシートを活用した市内の飲食店舗利用促進事業も行われる予定。鶴見区においては、商店街の消費促進のために、商店街店舗での購入者への景品提供に係る経費のサポートや飲食店支援としてのテイクアウトや、デリバリー店舗の紹介雑誌の作成等、区づくり推進費及び局予算の区配を活用した事業を検討している。

山田 議員：臨海フェスティバルや三ツ池公園フェスティバルが中止となった代わりに「地域一体感醸成の代替イベント」とあるが、検討している内容を教えていただきたい。

岩田 地域振興課長：昨年引き続き、2年連続してお祭り等ができない状況である。地域の繋がりやイベントのノウハウの伝承のため何かできることを、地域の方と検討している。生麦第二地区連合会で昨日実施した花火の打ち上げ、連合単位でテイクアウト型式でのイベントなど、模索している段階。コロナ感染症の拡大状況にもよるが、コロナ禍においても実施できるものを地域の皆様と協力し、区役所の職員も汗をかきながら検討している。

尾崎 議員：年末年始から特に火災が多いと実感している。火災が今年に入ってどのくらい発生したか情報はあるか。

下枝 鶴見消防署長：鶴見区内の 9 月 6 日までの火災の状況について、火災は 32 件。昨年より 2 件減っている。主な原因は、「放火または疑いを含む」件数が 8 件。昨年に比べて 5 件増。「コンロ」は 6 件で、昨年 5 件のためほぼ横並び。「たばこ」は 6 件で昨年より 3 件の減という状況。

尾崎 議員：コロナ禍において市民からの相談や業務の内容に変化があったか聞きたい。道路の相談など、何か変わったことはあるか。

相場 土木事務所長：道路・下水・公園の基本的な管理は特に変化はないが、例えば公園愛護会などの地域活動については、コロナの影響で停滞している状況もある。

尾崎 議員：同じく資源循環局の事務所で何かあるか。

露木 鶴見事務所長：ごみ量に関しては、令和 2 年度は自宅で過ごされる

方が非常に多い関係で、令和元年度に比べて家庭ごみの量は約 2.4%の増加。一方で事業系ごみは、約 11.5%の減少。令和 3 年度に入り、コロナ前の水準まで、家庭ごみの量が減ってきている傾向にあり、コロナ渦においてもライフスタイル等が従前に戻りつつある。

尾崎 議員：夏休みが終わり、学校が始まったが、コロナ関係で区内の小中学校が休校になっているなどの話はあるか。

松浦 学校連携・こども担当課長：緊急事態宣言が発令されている中での対応として分散登校を行っている。2組に分けて教室内を半分にし、授業等を行っている。自宅で留守番が難しいこどもは、分散登校中であっても学校が緊急受入れを行っている。登校日ではないため教室には入れず、別枠で受け入れる工夫が必要だと、校長から話を聞いている。

尾崎 議員：緊急受入れは学校単位で対応しているのか。給食も含めて大丈夫なのか。

松浦 学校連携・こども担当課長：受入れの人数は各学校によって、大分違いがあるが学校の工夫で対応している。給食についても提供している。

尾崎 議員：最後に一点。9月 23 日からワクチン接種の時間帯が増えるようだが、鶴見区の医師会や薬剤師会から何か意見はあったか。

市川 福祉保健センター長：ワクチン接種について、医師会、薬剤師会からは困っているなどの話はない。ただ、医師はワクチン接種だけでなく、PCR検査、陽性患者フォロー、この3つを同じ時期に行うため、相当尽力していただいていると聞いている。

古谷 議員：福祉保健課の体制だが、今回第5波を何とかしのいだが、第6波に備えなければならない。短期的な視点で、しのいでいる体制ではなく、福祉保健課の体制が適切なのか、常勤職員の体制含め、中長期的にどうすべきかの考えについて教えてほしい。

森 鶴見区長：福祉保健課を含めて福祉保健センター全体のあり方だが、18区の人口など様々な要因から現在の定数が決まっている。一つの区だけ別の話でなく、18区の基本形がある。区の現場からはもちろん、業務に応じて人員がもっと必要だと強く伝えているが、市全体で見れば、局ではワクチン接種の業務に対応することやそれぞれ事業があり、定数を変えるより、応援を組むという対応となる。ただ、業務の量をしっかり見直し、あるべき姿となっているかは議論を始める時期ではある。区の

立場から意見はしっかりと伝えていく。

古谷 議員：防災活動だが、コロナ禍になり防災訓練が縮小した。机上訓練を中心メンバーだけで終わっていることがすごく多い。一方、全国的に見れば災害が各地で起こっている。コロナ禍での防災訓練等をどうしていくのか考えるべき。実際の訓練が必要と思うがいかがか。

柏木 総務課長：多くの人を集めての訓練を中止し、役員だけが集まってコロナ禍対策についての議論を行うというのも訓練の一つと考える。だが、人を集めての訓練がないことにより防災意識がなくなっていくことは本意ではない。区として、防災意識を高めていけるような取り組みを今まで以上に進める必要がある。両輪でやっていきたい。

井上 議員：鶴見花月園公園についてようやく開園となるが、地元住民からの要望など取り入れることはできたか。具体的に説明いただきたい。

末吉 区政推進課長：地元住民とは意見交換会を開催し、連合町内会長や自治会長の皆様にご出席いただいた。様々なご意見をいただき、全てに応えることは難しいが、一例を挙げさせていただく。公園の名称は鶴見花月園公園である。地域の方からこの名称がいいとご意見をいただき、決めたもの。また、「生見尾（うみお）」の名称について、この名称も大事にしてほしいとご意見をいただき、公園に案内板を設けて、「生見尾」のことを紹介するなど、できる限り多くの地域の方の要望にこたえられるよう、公園作りに取り組んできた。

井上 議員：管理も面積が大きいもので大変だと思う。公園愛護会も作ると思うが、植栽、遊具、広場など管理の体制はどうなっているか。

相場 土木事務所長：公園は土木事務所が管理する。愛護会も結成いただき、地域の方に公園に多くかかわっていただきたいが、草刈りや施設の点検など基本的な管理については土木事務所の今の体制で対応する。

井上 議員：前面道路の開通や全体の開発は遅れているが、見込みなど今後についてお聞きしたい。

末吉 区政推進課長：事業全体のスケジュールは遅れている。遅れたスケジュールの中で公園部分を優先して整備を行い、11月に向けて最終の準備工事を行っているところである。前面の道路だが、供用開始の目標は令和5年の春。また、前面のところに集合住宅ができる予定であり建設工事を進めているが、工事完了は令和7年度を予定している。

井上 議員：工事車両がずっと続き、公園はオープン時点では周りが工事

	<p>現場であるため、安全配慮を是非事業者に強く徹底してほしい。</p> <p>末吉 区政推進課長：工事全体については都市整備局、それから公園部分については環境創造局が行っている。事故が起こらないような安全の配慮は十分に行うように、事業者到我々からも、訴えかけていきたい。</p> <p>山田 議員：公園はとても広いスペースであり、京急からもJR鶴見駅からアクセスができる。便利な場所として、イベント利用可能性があると考えるが、状況など考えがあれば、お聞きしたい。</p> <p>末吉 区政推進課長：公園は全体で約4.5ヘクタール、さらに真ん中の大原っぱは、約8,000平米であり、とても大きなスペースになっている。区民にも、積極的に利用していただきたい。もちろん地域のイベントなどに活用できるのではないかと考える。我々区役所も地域の方、団体にも呼びかけ、にぎわいがある公園にしていきたい。</p>
備 考	